

# アルゼンチンアリの特徴

## ●外見



体長2.5mm

働きアリは体長2～3mm、女王アリは働きアリよりも大きく4～5mmです。体は薄い茶色。脚と触角が長く、スレンダーな体形をしています。

## ●動き

在来アリの2倍近いスピードで動きます。素早く動けるということは、いち早くエサを見つけたり、在来アリへの攻撃も増すということです。

## ●行列



在来アリは1列に整列

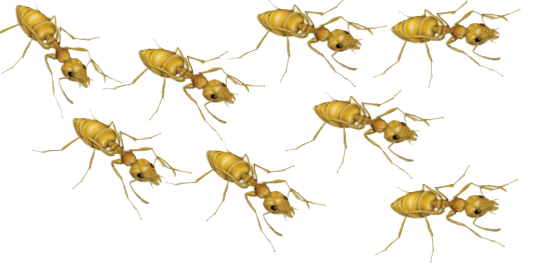
アリはエサを見つけると、巣にいる仲間にエサの場所を知らせます。そして、行列をつくってエサをとりにいきます。一般的な在来アリはきれいに1列に並びますが、アルゼンチンアリは太い行列をつくります。



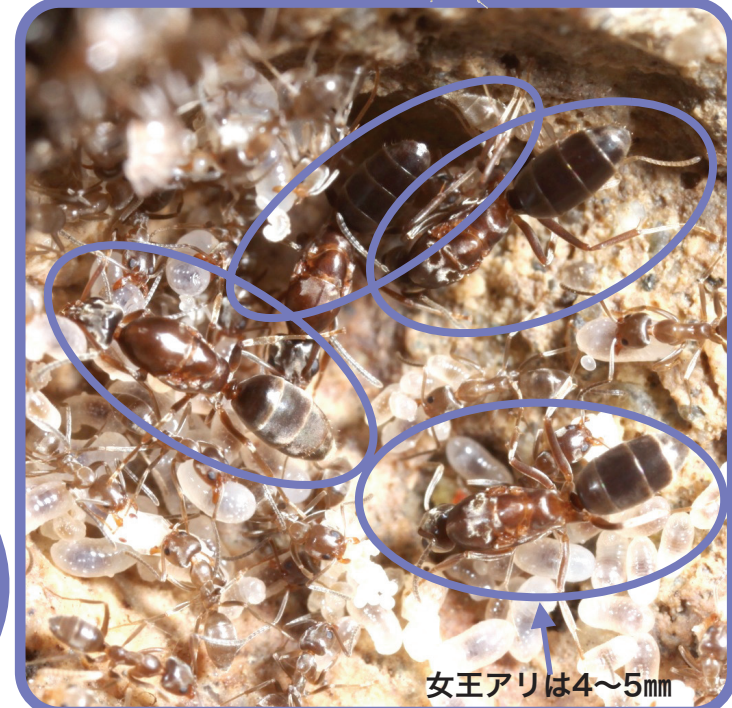
アルゼンチンアリは太い行列

## ●活動

在来アリの活動は春～秋で、冬は巣穴に閉じこもっています。一方、アルゼンチンアリは冬眠せず、冬でも活動。気温が5℃以上であれば、地表に出て活動します。



## ●家族

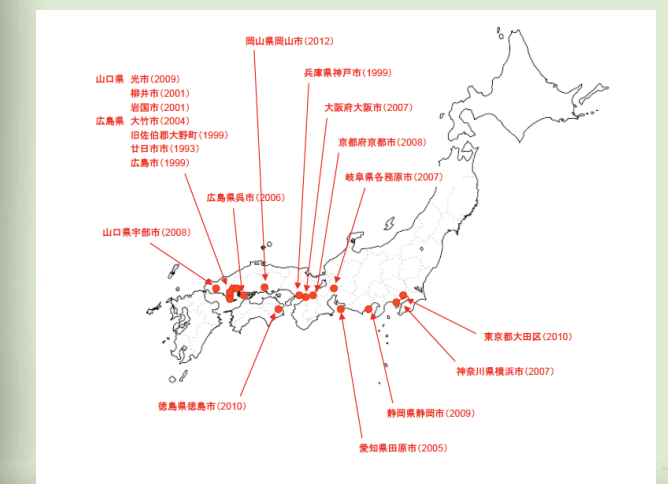


女王アリは4～5mm

ひとつのファミリーに女王アリが多数います。女王アリは姉妹関係であるため、きわめて親和的。また、分家したファミリー同士は近くに棲み、親戚関係の交流を続けるため、分家を含めて巨大な一族を形成します。

## ●分布

原産地はアルゼンチンを含む南米です。1900年までにアメリカやヨーロッパで確認され、その後、オーストラリアやアジアにも渡りました。船で運ばれる荷物にまぎれて拡散したと思われます。1993年、広島県の廿日市市で発見されたのが、日本への侵入第一号です。その後、中国地方に広がり、1999年には神戸市、2007年には大阪市、2008年には京都市でも見つかりました。



## ●生息環境

まずは船荷にまぎれて港に侵入。その荷物が市街地に運ばれて、アルゼンチンアリは各地に広がっていきました。このアリは体をおおう殻が薄く、水分を奪われやすい体質です。そのため、海や河川、用水路など湿気の多い場所を好みます。

### 1 港に到着

アルゼンチンアリが棲みついている



大阪港

### 2 市街地に移動

水のある場所に棲みつやすい



神戸港

### 3 周囲に拡散

水のある場所から道路・公園・庭に移動



京都市中書島



愛知県田原市



大阪市此花区  
(大阪府内では1ヵ所のみ)

## ●巣

土の中、石の下、落ち葉の下、植木鉢の中や下、コンクリートの割れ目、畑のマルチの下など、いたるところに巣を造ります。在来アリのように迷路のような巣を掘ることはしません。ですから、石などをひっくり返せば、その場に女王アリ・働きアリ・卵が散乱している状態です。屋根さえあれば雑魚寝状態で暮らせるたくましいアリなのです。



神戸市



南アフリカ



山口県・岩国市